

2021年度 事業報告書

2021年度における重要無形文化財人形浄瑠璃文楽の伝承及び普及事業については、新型コロナウイルス感染症（以下:新型コロナ）拡大防止の影響を受け、昨年度に引き続き、幾つかの公演が中止となった。

開催された公演においては、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下：芸文振）並びに大阪府等の関係諸団体と連携し、消毒・換気の徹底や座席数の減少、芸員や舞台関係者の公演前のPCR検査を実施するなど、お客様に安心して公演を楽しんでいただけるよう環境整備に努めた。

年間通じて、制約を受けながらの事業活動ではあったが、協会においては、関係各所のご支援をいただき、地方公演、特別公演等の主催または協力公演を通じて、人形浄瑠璃文楽の普及啓発に取り組んだ。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

新型コロナ拡大防止のため、国立文楽劇場の4月公演千穉楽及び国立劇場主催の5月、2月の本公演が一部中止となった。公演日数は、大阪・東京を併せて、117日となった（公演数は、新型コロナ拡大防止のため、本年度も3部制に継続した）。

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/3～4/24	21日 63回	11,969人
	7/16～8/3	18日 54回	13,240人
	10/30～11/21	22日 66回	13,095人
	(2022) 1/3～1/26	23日 69回	13,964人
計		84日 252回 (44日 132回)	52,268人 (23,969人)
東 京 (国立劇場)	5/12～5/16	5日 15回	3,492人
	9/4～9/21	17日 51回	11,790人
	(2021) 2/5・2/13～22	11日 31回	8,111人

計	33日 97回 (35日 123回)	23,393人 (23,143人)
合計	117日 349回 (79日 255回)	75,661人 (47,112人)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業。2021年度は新型コロナ拡大防止のため、4会場が中止となり、15会場での公演となった。

（ ）内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
仙台、鷹栖、熊谷、静岡、 名古屋、岐阜、横浜	10/2～10/17	7日 14回 (6日 12回)	4,734人 (3,264人)
大野城、北九州、尼崎、 高崎、所沢、京都、姫路、 津	(2022) 3/5～3/21	9日 18回 (4日 8回)	5,447人 (1,735人)
合計		16日 32回 (10日 20回)	10,181人 (4,999人)

(3) 青少年を対象とした公演（国立文楽劇場・国立劇場主催）

青少年を対象にした公演は、国立文楽劇場及び国立劇場主催の「文楽鑑賞教室」を大阪（11日22回）、東京（13日25回）で実施したほか、同じく国立文楽劇場及び国立劇場主催による若手技芸員を中心とした「若手公演」は、6月の大阪公演が新型コロナ拡大防止のため、1日の開催となったが、6月、12月の東京は予定通り実施することができた。

①文楽鑑賞教室（国立文楽劇場・国立劇場主催）

（ ）内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
大阪 (国立文楽劇場)	6/3～6/17	11日 22回	2,226人

東京 (国立劇場)	12/4~12/17	13日 25回	8,139人
合計		24日 47回 (13日 25回)	10,365人 (5,611人)

②若手公演 (国立文楽劇場・国立劇場主催)

()内は、前年度実績

公演地	期間	日数・公演数	観客数
大阪 (国立文楽劇場)	6/21	1日 1回	285人
東京 (国立劇場)	6/24~6/25	2日 2回	857人
	12/4~12/17	13日 13回	6,465人
合計		16日 16回 (13日 26回)	7,607人 (5,973人)

(4) 特別公演事業

特別公演事業は、本年度も新型コロナの影響を受けることになった。8月の内子座文楽第24回公演が中止になり、昨年度に続き、年間250日程度公演しているギオンコーナーも中止となった。

一方、当初年間計画になかったが、文化庁の伝統文化の体験機会回復事業として「子供たちのための人形浄瑠璃文楽体験教室」を開催した。また新たな活動として2月には、美術家の森村泰昌氏とのコラボによる「人間浄瑠璃 新・鏡影綺譚」を開催した。

・主な特別公演事業

公演名	期間	日数・公演数	観客数
長門文楽	7/3	1日 1回	300人
子供たちのための人形浄瑠璃文楽体験教室	8/17・18	2日 4回	320人
中之島文楽	10/1・2	2日 2回	450人
大正区公演	1/29	1日 1回	200人
人間浄瑠璃 新・鏡影綺譚	2/26・27	2日 4回	800人

ヴィアール大阪 はじめての文楽	3 / 5	1日 2回	320人
博多座文楽	3 / 8	1日 1回	920人
ムムム!!文楽 こども本の森 みて きいて ふんらくのおはなし どうぶつの巻	3/25	1日 2回	150人

2. 伝承事業

2021年度(2022年3月31日現在)の契約技芸員数及び内訳は、次のとおりである。

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
85名	19名	21名	45名

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導に重点をおいた取り組みを推進するとともに、技芸員の舞台活動を支援するために必要な着付、黒衣、三味線等の購入等に際し助成を行った。

一方、蝠聚会など例年開催される若手技芸員による自発的な勉強会は新型コロナ拡大防止のため中止となった。

そのような中でも1年間真摯に舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し、例年どおり文楽協会賞を贈った。

(1) 【中止】若手技芸員発表会 8月 蝠聚会(国立文楽劇場小ホール)

(2) 文楽協会賞表彰 3名

(太夫) 豊竹咲寿太夫、(三味線) 鶴澤清公、(人形) 桐竹勘介

3. 後継者育成事業

文楽の技芸員を目指す独立行政法人日本芸術文化振興会の文楽研修生2名(太夫1名、三味線1名)に養成貸付金(2名120万円)の貸与を行った。

また、文楽協会の研究生3名(太夫2名、三味線1名)に対し、支援費として毎月一人5,000円の支給を行った(3名計18万円)。

4. 普及啓発事業

(1) ミニ公演事業（大阪府教育委員会）

これまで文楽に馴染みの少なかった人達に、文楽を知ってもらい親しんでもらうため、大阪府内における認知度向上と国立文楽劇場への観客動員増加を目的とした普及啓発事業として、三業の役割解説と短時間の演目を組み合わせた公演を実施した。なお、1月10日に実施予定だった恒例の道頓堀・戎舞台は新型コロナ拡大防止のため中止となった。

実施場所	公演日	観客数
クレオ大阪東（大阪市城東区）	7/7	170人
コスモシアター（貝塚市）	10/16	780人
国立文楽劇場小ホール（大阪中央区）	3/7	300人

(2) ムムム!!文楽（大阪市）

「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」（構成：大阪市、文楽協会）が実施する各種事業に協力した。

- ・YouTube「ムムム!!文楽チャンネル」
- ・ウェブサイト Lmaga.jp「ハロー！文楽編集部 2021」
- ・文楽フリーペーパー「ハロー！文楽」

（その他、前掲の「ムムム!!文楽 こども本の森 みてきいて ぶんらくのおはなし どうぶつの巻」）

(3) 【中止】ワンコインで文楽

（公益財団法人関西・大阪21世紀協会／アーツサポート関西文楽支援寄金）

5. 運営

(1) 評議員会の開催 6月16日（新型コロナウイルスのためオンラインと併用）

決議事項：2020年度事業報告について

2020年度計算書類について

理事の選任について

報告事項：新型コロナウイルスの影響について

(2) 理事会

- ・第1回理事会 5月28日（新型コロナウイルスのためオンライン会議）

決議事項：2020年度事業報告について

2020年度決算について

評議員会の招集について

文楽技芸後継者養成費の返還債務の免除について

報告事項：理事長の職務執行状況報告について

新型コロナウイルスの影響について

- ・第2回理事会 3月23日（新型コロナウイルスのためオンラインと併用）

決議事項：2022年度事業計画について

2022年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2022年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

規程の一部変更（職員就業規則）

規程の一部変更（組織規程）

評議員会の招集について

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

理事長の職務執行状況報告について

公益財団法人文楽協会賛助会員の入会状況について

文楽協会新ロゴマークの制定について

(3) 賛助会員制度の実施

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」は、2022年3月末現在、個人会員207人（912口、274万円）、法人会員23社（339口、1,700万円）。

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。